

Daily Macro Economic Insights

貿易収支(通関統計)(2024年11月)

一名目輸出は2か月連続の増加、輸出数量では横ばい



PwC Intelligence シニアエコノミスト 伊藤 篤

チーフエコノミスト、上席執行役員 片岡 剛士

名目輸出金額が2か月連続の増加

財務省から、2024年11月の貿易統計が公表された(図表1)。輸出金額(名目、原数値)は9兆1,524億円、前年比+3.8%となった。2か月連続で増加した。欧米向けの自動車関連が弱いものの、中国・アジア向けの改善で増加となった。品目別では、輸送用機器が前年比-6.0%(寄与度-1.5%ポイント(以下、ppt))となった。輸送用機器は4か月連続での減少となった。一般機械が同+5.1%(寄与度+0.9ppt)となり、2か月連続で増加した。このうち、半導体等製造装置が前年比+32.1%、寄与度+1.0pptと増加したものの、建設用・鉱山用機械、繊維機械などが押し下げた。電気機器は同+1.0%の増加となった。寄与度では+0.2pptとなり、うち半導体等電子部品は-0.1ppt押し下げた。電気計測機器、電気回路等の機器が押し上げた。

輸入金額(同)は9兆2,700億円となり、前年比-3.8%と8か月ぶりに減少した。エネルギー関連の鉱物性燃料は同-18.2%(寄与度-4.4ppt)と3か月連続で減少した。非鉄金属鉱が増加した原料品が前年比+11.8%(寄与度+0.7ppt)となった。携帯電話の寄与が大きいとみられる電算機類(含周辺機器)を含む一般機械が前年比+5.9%(寄与度+0.5ppt)と押し上げた。輸入はエネルギー関連の寄与が大きかった。

貿易収支(原数値)は-1,176億円となり、5か月連続のマイナスとなった。なお、季節調整済み値では輸出が8兆8,586億円(前月比+0.2%)、輸入が9兆2,429億円(同+1.9%)となり、貿易収支は-3,846億円(同+67.6%)となった。

地域別輸出:米欧向けの自動車関連の減少は継続、中国・アジア向けは増加

次に地域別の名目輸出動向を確認しておこう。11月の米国向けは前年比-8.0%となり、4か月連続の減少となった。商品別には、自動車を含む輸送用機器が前年比-15.1%、寄与度-6.0pptと押し下げた。化学製品、一般機械も減少した。11月のEU向けは、前年比-12.5%と8か月連続で減少した。商品別では輸送用機器が同-31.7%と大幅な減少、一般機械が同-15.2%と押し下げた。中国向けは、11月に前年比+4.1%増加し、2か月連続で増加した。輸送用機械は減少したものの、一般機械、電気機器、原料別製品で増加した。中国以外のアジア向けは、前年比+11.5%となり、11か月連続での増加となった。米欧向けの減少が続く一方で、中国を含むアジア向けは増加した。

図表1:貿易収支の推移

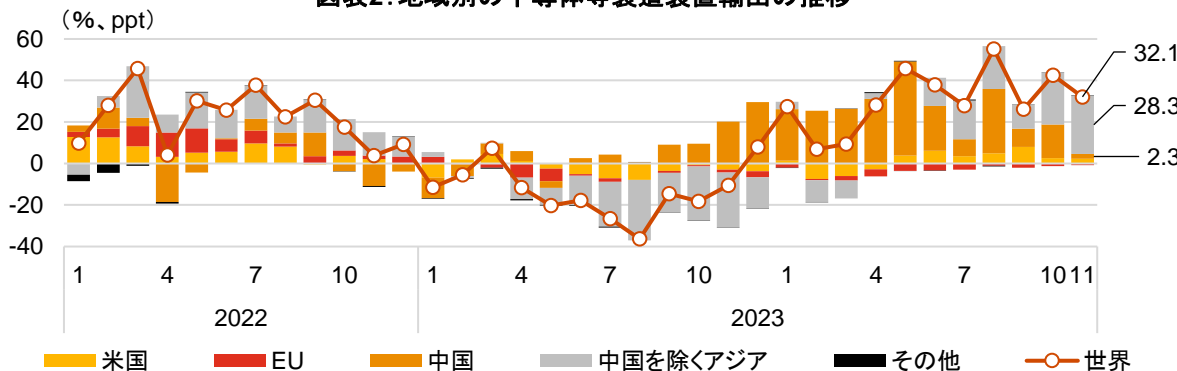
	名目(兆円)			名目・前年比(%)												
	輸出	輸入	収支	輸出総額				輸入総額								
				地域別	商品別	輸送用機器	一般機械	電気機器	鉱物性燃料	電気機器	化学製品					
				米国	EU	中国	中国以外のアジア									
2022年	11月	8.8	10.9	▲2.1	20.0	32.6	32.0	3.5	16.4	33.8	18.9	11.4	30.6	60.8	24.2	32.7
	12月	8.8	10.3	▲1.5	11.5	16.9	27.0	▲6.2	10.4	14.4	13.2	6.2	21.2	44.5	9.1	30.5
2023年	1月	6.6	10.1	▲3.5	3.5	10.4	9.5	▲17.1	2.3	9.2	4.5	▲1.5	17.5	46.4	11.7	1.8
	2月	7.7	8.6	▲0.9	6.5	14.9	18.6	▲10.9	4.0	16.1	1.4	▲1.7	8.3	18.6	15.8	▲2.6
	3月	8.8	9.6	▲0.8	4.3	9.3	5.1	▲7.7	2.5	23.0	1.7	▲4.5	7.0	11.6	8.9	▲14.9
	4月	8.3	8.8	▲0.5	2.7	10.5	11.8	▲2.8	▲8.0	19.8	▲0.1	▲4.3	▲2.7	▲18.1	12.9	▲4.0
	5月	7.3	8.7	▲1.4	0.6	9.4	16.6	▲3.4	▲10.4	38.9	▲3.6	▲8.0	▲10.2	▲27.7	▲1.9	▲13.5
	6月	8.7	8.7	0.0	1.5	11.5	15.0	▲10.9	▲7.0	38.1	▲1.5	▲6.3	▲13.1	▲33.2	▲7.8	▲13.9
	7月	8.7	8.8	▲0.1	▲0.3	13.5	12.4	▲13.4	▲13.2	22.7	▲4.5	▲7.3	▲14.1	▲36.7	▲1.8	▲12.7
	8月	8.0	8.9	▲1.0	▲0.8	5.1	12.7	▲11.0	▲7.6	25.6	▲9.6	0.2	▲17.7	▲35.9	▲6.1	▲15.5
	9月	9.2	9.2	0.0	4.3	13.0	12.9	▲6.2	▲3.3	21.2	▲1.4	▲4.0	▲16.2	▲38.0	▲7.6	▲21.8
	10月	9.1	9.8	▲0.7	1.6	8.5	8.9	▲4.0	▲6.1	27.5	▲6.4	▲3.9	▲12.1	▲27.8	5.7	▲16.8
	11月	8.8	9.6	▲0.8	▲0.2	5.4	▲0.0	▲2.2	▲5.1	11.3	▲10.2	▲0.4	▲11.6	▲25.3	4.7	▲18.5
	12月	9.6	9.6	0.0	9.7	20.2	10.3	9.5	▲0.4	36.6	2.0	1.2	▲6.6	▲17.7	8.9	▲18.0
2024年	1月	7.3	9.1	▲1.8	11.9	15.6	13.8	29.2	7.3	24.1	5.2	7.6	▲9.8	▲22.5	▲8.7	▲12.3
	2月	8.2	8.6	▲0.4	7.8	18.4	14.6	2.5	2.2	20.1	3.7	7.7	0.4	▲14.2	0.3	▲8.0
	3月	9.5	9.1	0.4	7.3	8.5	3.0	12.6	3.6	10.3	3.9	9.9	▲5.1	▲11.5	▲3.3	▲9.1
	4月	9.0	9.5	▲0.5	8.3	8.8	▲2.0	9.6	9.8	15.9	5.7	8.5	8.0	5.7	1.5	▲2.0
	5月	8.3	9.5	▲1.2	13.5	23.9	▲10.1	17.8	11.4	16.9	9.8	16.9	9.4	6.4	0.9	4.9
	6月	9.2	9.0	0.2	5.4	11.0	▲13.4	7.2	7.9	0.8	3.5	7.4	3.3	▲2.1	1.7	1.3
	7月	9.6	10.2	▲0.6	10.2	7.3	▲5.3	7.3	19.4	5.7	5.0	14.2	16.5	12.1	13.5	22.4
	8月	8.4	9.1	▲0.7	5.5	▲0.7	▲9.1	5.2	14.7	▲5.1	7.9	8.7	2.2	0.6	▲4.4	12.4
	9月	9.0	9.3	▲0.3	▲1.7	▲2.4	▲9.0	▲7.3	4.2	▲7.5	▲3.3	0.8	1.9	▲3.7	2.4	2.7
	10月	9.4	9.9	▲0.5	3.1	▲6.2	▲11.3	1.4	11.0	▲4.4	2.2	0.4	0.4	▲11.4	▲0.0	5.6
	11月	9.2	9.3	▲0.1	3.8	▲8.0	▲12.5	4.1	11.5	▲6.0	5.1	1.0	▲3.8	▲18.2	▲2.9	▲1.6

(出所) 財務省より筆者作成。

半導体製造装置輸出: アジア向け輸出が2倍となり、高い伸びが継続

上記でみたように輸出のうち輸送用機械の減少が継続する一方、半導体関連の製造装置が増加している。図表2で改めて地域別の半導体等製造業装置の輸出をみると、世界全体向けでは11月は前年比+32.1%となった。輸出金額は3,743億円となり2020年平均の輸出額2,000億円程度よりも高水準での輸出が継続している。地域別にみると、11月は中国を除くアジア向けが前年比+103.0%、寄与度+28.3pptと大幅に押し上げた。中国向けは寄与度+2.3pptとなった。米国向けは前年比+17.6%、寄与度+2.2pptの押し上げとなった。米国では、2025年1月の第2期トランプ政権発足に向けて、半導体に関する規制をこれまでと大きく変更する可能性がある。それを踏まえて、規制変更前に半導体製造装置の輸出の増加が継続する可能性もある。もっとも規制変更前の駆け込みの動き以降は、規制や半導体産業の動向によっては急激に輸出が減少するリスクもあり、注意が必要であろう。

図表2: 地域別の半導体等製造装置輸出の推移



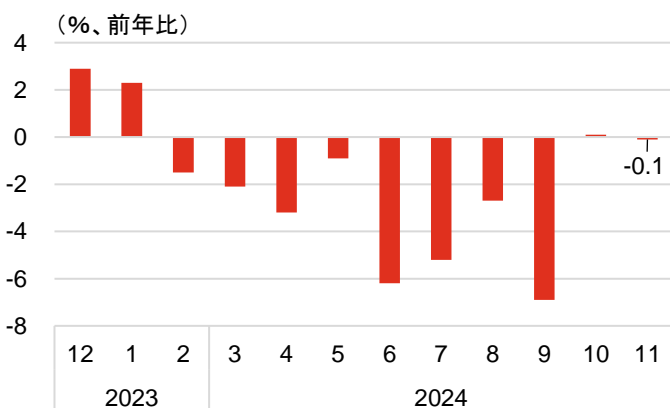
(出所) 財務省より筆者作成。

輸出数量: 米欧中向けの減少が継続で弱い動き

以上は名目値での議論であるが、足元の輸出入は価格変化の影響を大きく受けているため、その影響を除いた輸出数量指数(財務省公表値)を確認しておこう。11月の輸出数量(図表3)は、前年比-0.1%となり、2か月ぶりに減少した。もっともこの2か月はほぼ横ばいといってよいだろう。図表4で地域別にみると、11月は米国向けが前年比-9.5%(前月:同-6.1%)となった。6か月連続でのマイナスとなり、減少幅も拡大している。EU向けは同-14.2%(前月:同-15.9%)となり、9か月連続で減少し、弱い動きが継続している。中国向けは同-6.4%(前月:同-4.4%)と8か月連続の減少となっている。アジア向けは同+4.4%(前月:同+3.9%)となり、2か月連続で増加した。

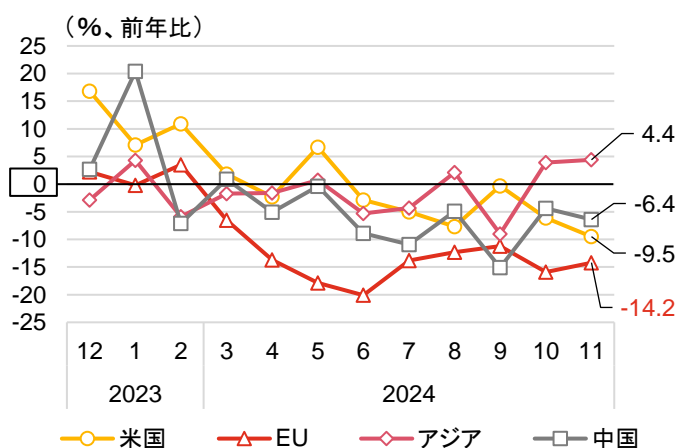
輸出数量は2か月連続でほぼ前年並みとなった。もっとも地域別にみると米欧中向けの減少幅が拡大している。11月の貿易統計では財輸出が弱含みのままであり、今後の日本経済の下押し要因とならないか慎重にみていく必要がある。

図表3: 輸出数量の推移



(出所) 財務省より筆者作成。

図表4: 地域別の輸出数量の推移



(出所) 財務省より筆者作成。

片岡 剛士

チーフエコノミスト、上席執行役員
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

伊藤 篤

シニアエコノミスト
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

PwC Intelligence 統合知を提供するシンクタンク
<https://www.pwc.com/jp/ja/services/consulting/intelligence.html>

PwCコンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー Tel: 03-6257-0700